



新刊図書案内

①「こころの賛美歌・唱歌」 大塚野百合 監修

あっ、聴いたことがある！唱歌を賛美歌で歌ってみよう！ 埴生の宿、故郷の人々（スワニ川）、星の世界、秋の夜半、庭の千草、蛍の光、アニーローリー



②「The study Bible」 新共同訳

旧約聖書、続編スタディ版 新約聖書の背景を知るための最良の手引

③「神の国」 説教 及川 信著

「神の国」の重要な柱は十字架と復活。ルカによる福音書の「神の国」という語のある箇所のみをセレクト。「神の国を生きよ」と招く、神の言葉を力強く語る。

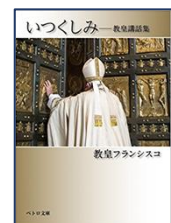


④「核発電の便利神話」 戸田 清 著

核発電は火力発電に比べ、実は不便である。第一に発電量の割に熱汚染が大きい。第二に過酷事故での現場には近づけず事故調査が困難である。第三に核のゴミの安全管理は10万年も続けなければならない。

⑤「いつくしみ」 教皇講話集 教皇フランシスコ

わたしたちは皆、イエスのなぐさめの言葉を身をもって知り、それを生きるべき弟子です。



⑥「烏賊墨の一筋垂れて冬の弥撒（ミサ）」 大阪大司教 前田万葉

五島列島出身の前田万葉大司教が俳句に福音をのせて語る恵みの書

⑦「愛と英知の道」—すべての人のための霊性神学— ウィリアム・ジョンストン著

九里 彰 監訳 岡島禮子 三好洋子 渡辺愛子 共訳

西洋と東洋の神秘主義の伝統に通暁した著者が、21世紀というグローバル化し、「地球家族」となった現代世界のすべてのキリスト者に遺した霊的生活の道しるべ。



⑧「キリスト教は役に立つか」 来住 英俊 著

イエスの教えは「孤独」に効く 日本人にもわかる「幸福の方程式」



⑨「神と人間のドラマ」 松本敏之著

創世記 25～36 章による説教。神の選びのふさわしい器へ！試練を経て変えられるヤコブの人生。

⑩「いのちを紡ぐ聖人たちの言葉」 須永 和宏 著

聖人たちの言葉を冒頭に掲げ、その上で聖人の全貌を浮き彫りにする従来の聖人伝とは一味違った新しい形の「聖人伝」



⑪「ここが知りたいキリスト教」 関川 泰寛 著

現代人のための道案内 聖書って何が書いてあるの？ 神を信じるってどういうこと？死海写本ってなに？ どうして愛と平和の宗教が戦争を起こすの？
そんな疑問にお答えします



⑫「アトリウムの子どもたち」 —モンテッソーリの宗教教育 長谷川 京子 著

モンテッソーリ宗教教育では、子供たちが五感を使い神様に心を向ける部屋（アトリウム）がある。

子供たちは、ここが大好きで、喜びに満ち溢れて帰って行く。

「神さま、大好き！」

本書は、教具の使い方を一つ一つ説明するだけでなく子供の祈りの言葉も紹介しながら実践形式で解説する、子供と関わるすべての方におすすめの書である。

⑬「わが心のクリスマス」 パール・バック 磯村愛子 訳

愛のしあわせ、愛のまこと、家族の結び、世界を結ぶ愛の力……。

ノーベル賞作家、パール・バックのクリスマス物語

